

令和6年度第1回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和6年7月18日（木）午後2時～午後3時40分

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

（委員）松本委員長、西村副委員長、高橋委員、新井委員、堀内委員、館委員、
齊藤委員、日比谷委員、花村委員

（事務局）教育次長、生涯学習部長、生涯学習部次長、中央図書館長、中央図書館職員4名

4 傍聴人 なし

5 議題

報告事項

- （1）令和5年度利用統計及び実績について
- （2）令和6年度事業計画について
- （3）令和6年度図書館自己点検評価について
- （4）その他

6 議事の概要

報告事項

- （1）令和5年度利用統計及び実績について、事務局より報告を行った。
- （2）令和6年度事業計画について、事務局より報告を行った。
- （3）令和6年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- （4）その他、委員から情報提供及び図書館運営に関する意見が表明された。また、ファブスペースについて事務局より報告を行った。

7 会議経過

報告事項

- （1）令和5年度利用統計及び実績について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（委員）貸出しについては全国的に減少しており、理由を推測することは難しい。事前資料の報告によると、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、市民がこれまで控えていた旅行やイベント等へ参加する機会が増えたことによると推測しているが、真偽はどうなのか。滞在型の利用へと変化しているとも報告されているが、分館においても同じことが言えるのか疑問であるので、分館の状況につ

いても報告してほしい。

(事務局) 理由の分析についてはコロナの影響で困難になっている。社会全体として、紙媒体での読書に費やす時間が減少している状況もある。そうした様々な要因がある中で、令和5年度は例年繁忙期である夏休み期間の利用が減少していたことを受け、旅行やイベント等への参加を主な要因として挙げたものである。今後も貸出しの減少は継続する可能性があり、分析をしていく。

(委員) 利用統計内の単位表記について統一をお願いします。

(事務局) 承知した。

(委員) 「夏休み図書館クラブ「あなたも図書館員」」の参加者の男女比を教えてください。

(事務局) 女子12名、男子4名である。

(委員) 参加したら何か特典はあるのか。

(事務局) 2回参加した方には認定証を贈呈し、図書館サポーターズとして、イベントでよみきかせや読書会のファシリテーター等、図書館の事業に協力していただいている。

(委員) 参加して終わりではなく、その後のフォローがあるのはすばらしい。

(委員) 貸出しについて、コロナ以前と比べるとどのような状況なのか。

(事務局) コロナ後は、以前に比して20~30%程度は減少したと考えている。

(委員) 関係する大学図書館においても、入館者数が20%減少した。コロナ前の2018年度の統計との比較が必要である。

(委員) 一方で、小中学生の読書率が上がっているという新聞記事もあった。

(委員) 子どもたちの読書率については、学校での朝読も影響している。

(委員) 児童生徒向けのイベントについては、PTAでも広報に協力できる。

(委員) 利用統計に掲載されている案内サービスについて、資料案内、利用案内、調査回答の違いは何か。

(事務局) 資料案内は特定資料の所蔵検索や希望する分野の紹介、利用案内は施設や利用方法についての案内、調査回答は調べ物のお手伝い、いわゆるレファレンスサービスを指している。

(2) 令和6年度事業計画について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(委員) 創業支援セミナーについて、図書館はどのように関わっているのか。

(事務局) 浦安商工会議所が主催するセミナーで、市として商工観光課と図書館が共催し実施している。図書館ではセミナーのテーマに沿ったパスファインダー(調べ方案内)を作成して提供するほか、開催当日には図書館職員が会場で、ビジネス支援サービスについての説明を行っている。

(委員) 事業計画の中で他にも共催事業はあるか。

(事務局) 令和6年度については、創業支援セミナー以外はない。

- (委員) 図書館だけで事業を行うのではなく、企業など様々な団体との共催事業を行ってもよいのではないか。
- (委員) 消防本部で開催する「うらやすとしょかん 子ども防災教室」は良い取り組みであると思う。
- (事務局) 子ども防災教室は、図書館ホームページ内で公表している浦安震災アーカイブのコンテンツ紹介や、消防本部での地震体験、防災グッズの作成等を行うものである。
- (委員) 令和6年度は令和5年度と比較して事業数が減少しているが、実施しないイベントは何か。
- (事務局) 製本ワークショップは、ファブスペースで開催するイベントと内容が類似しているため中止とした。レコードコンサートは、スピーカーの不具合のため開催を見送った。
- (委員) ファブスペースが開設されたが、人員の補充はされたのか。新たな業務が増えたことで、従来のサービスの質が低下する恐れはないのか。
- (事務局) ファブスペースが新設されたことで人員が増えたということはない。業務やイベント数が増えた分、全体的にイベントの見直しを行うなど、サービスの質が低下しないよう努めている。
- (委員) ファブスペースのイベントの対象を、盲学校の教諭等、教育者まで広げることができないか。
- (事務局) 今後、学校との連携において実施を検討したいと考えている。学校の先生向けの講習会等も検討していきたい。
- (3) 令和6年度図書館自己点検評価について、事務局より重点項目や今後のスケジュールなどの報告を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。
- (委員) 令和5年度の重点項目はどのようなものだったか。
- (事務局) 令和5年度は、「中央図書館の来館利用」「分館の来館利用」「レファレンスサービス」「子ども読書活動の推進」を重点項目とした。
- (委員) 令和6年度の課題として「誰もがアクセスしやすい図書館ホームページの改訂」がある。完成するのはいつ頃の予定か。
- (事務局) スマートフォンでホームページを閲覧している方にとっては使いにくい仕様であったが、現在、職員が改訂作業を行っており、今年度中には完成させる予定である。
- (委員) 「賑わいのある図書館としての環境づくり」も課題として挙げられている。無音の図書館ではなく、ある程度のざわめきや市民同士の会話が歓迎されることは念願であるが、啓発や周知については具体的にどのように行うのか。
- (事務局) 国内においても「賑わいのある図書館」を標榜する図書館は新設館を中心に増えているが、既存の施設で実現するのはなかなか困難であるとも聞いている。

ファブスペースの開設は、大きな転機となると期待しているところである。協議会委員の皆様からもご意見をいただきたいと考えている。

- (委員) いわゆる「静かな図書館」である東京都立図書館では、学生たちがひそひそ声で会話をしているにもかかわらず目立ってしまうという状況がある。図書館内でのゾーニングが効果的と言われているが、クレームが来ることで実現がむずかしくなるという事例が多々見受けられる。
- (委員) 終日、賑やかに過ごしてよい「がやがやデー」を月に1回開催するなどイベントを行ってはどうか。
- (委員) 個人的には、「賑わいのある図書館」の必要性や目的に疑問がある。図書館界ではトレンドなのか。静かに過ごしたい人が選ぶ場所が、図書館なのではないかと思っていたがどうなのか。
- (委員) 「賑わい」を「集客」という意味合いでとらえているのであるならば、浦安の図書館では既に達成できている。「賑わい」という表現を変えた方がよい。
- (事務局) 大規模改修後のリニューアルの際、「人と人が出会う図書館」「出会いのある図書館」をコンセプトのひとつとした。静かに図書館を利用したいという方にはサイレントルームや学習室のある書庫棟を案内する一方、一般フロアや児童室は、市民が交流し、コミュニティを生み出すことができる場所となるよう考えている。賑わいという表現については検討したい。
- (委員) スペース作り、雰囲気作りが必要である。
- (委員) 夏休み期間等に子どもにとっての居場所になるような、コミュニティとしての図書館が実現できるとよい。
- (委員) 居場所のない子どもたちが行ける場所であってほしい。
- (委員) 「音」については市民の意見にも幅があるので、図書館としては難しい課題であるが、空間的、時間的なゾーニングから始めてはどうか。
- (4) その他、委員から以下のような情報提供及び図書館運営に関する意見が表明された。また、ファブスペースについて事務局より報告を行った。
- (委員) 本市の図書館では病院サービスを継続して実施しているが、現在の状況を知りたい。
- (委員) 市内には総合病院が2か所あり、どちらとも連携してサービスを行ってきた。東京ベイ・浦安市川医療センターでのサービスは、病院の改修工事及び新型コロナウイルスのため現在休止しているが、順天堂大学医学部附属浦安病院では入院患者へのリクエスト資料の配達を実施している。また、病院が設置した図書コーナーへの団体貸出しについても、令和5年度末から再開したため、職員が定期的に赴いて図書の整理を行っている。図書コーナーは、外来患者も含め利用できる。
- (委員) 病院サービスを長年継続して実施している図書館は少ないため、評価したい。
- (委員) 外国人利用者へのサービスは。

- (事務局) 外国語資料を所蔵しているほか、英語、中国語、ハングルの利用案内を作成している。
- (委員) 以前、リクエストの多い本の寄贈を市民に働きかけてほしいと図書館にお願いしたが、エントランスにポスターを掲示してくれるようになった。また、外国語資料について、日本語を学ぶためのテキストが雑誌架に表紙を見せて排架されるようになった。市内在住外国人の割合を考慮し、ベトナム語、中国語の資料も並べてほしい。
- (委員) 国立国会図書館等と連携が行われているが、貸出不可の資料の閲覧は可能か。
- (事務局) 中央図書館レファレンス室のデータベース用端末から、国立国会図書館デジタル化コレクションについて図書館限定のコンテンツも含め閲覧ができる。
- (委員) 図書館情報学関連の学会発表のために行っている調査について報告する。千葉県内の全公立図書館の医療健康情報について分析を行った結果、本市の図書館は、県立、市川市に次いで高価格帯の資料を所蔵し、かつ、貸出率も比較的高い数値であった。また、図書資料の信頼性を表す要素のひとつである、索引がついている資料の比率が 23.1%と高く、質の良い選書、質の良い購入を行っていると言える。
- (委員) 4月に「江戸川区立図書館基本計画」が策定された。江戸川区は、23区内で人口当たりの図書館数が少ない区であるが、区役所の移転に伴い、それまで図書館のなかった船堀駅近辺に図書館を開設することになった。区民からは「浦安市のような図書館を作ってほしい」という声が多く挙がっている。
- (委員) 浦安市舞浜にも、図書館ができると聞いている。
- (事務局) 新設予定の舞浜公民館内に、図書スペースが設置される方向で計画中である。

また、事務局から令和6年3月に実施したファブスペースのオープニングイベント等について、報告を行った。次回の図書館協議会でファブスペースについて上半期の利用状況をまとめ、報告をすることとした。

以上